

第5回

武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議

日時：令和3年8月30日（月）

午後6時から午後7時30分まで

方法：オンライン会議

出席者：＜委員＞河邊委員、今福委員、加藤委員、平川委員、松井委員、

勝又子ども家庭部長、村松指導課長、

＜市・事務局＞吉田子ども育成課長、事務局2名

座長発言□、委員発言■、事務局発言○

開 会

【座長より挨拶】

1. 中間報告書について

□ 全体的なご意見や何か感じたことがありましたら、いただけたらと思います。

■ 中間報告を見て、武蔵野市の幼児教育において生きる力というのをどういうふうに考えているかというところが分かりやすかったです。このことについて話し合ってみんなで考えてきたということが初めに分かるかというふうに感じました。

5番のところは生きる力というのを自分たちがどういうふうに考えているかというところが見開きになるとわかりやすいと思います。

■ 幼児教育の位置づけがあって、例えばその後とかに、自分たちが生きる力をどういうふうに捉えているかという、先にその説明があってもいいと感じました。

□ 幼稚園、保育園、認定こども園の比較は資料でもいいですか。

■ 協力園の視察は、具体的な話になっているので、特徴的な取組は後述するみたいにして、後ろに下げてもいいと思いました。

□ アンケートの具体的なデータはどう思われますか。

○ ボリュームがあり真ん中が間延びしているようにも見えますので、後ろに持ってきてもいいと思います。

□ 3のところ、この委員会の経緯のような項目を立てて、視察とアンケートの両方から、私たちが目指したい生きる力はこのことだと決めましたというふうにしてはどうでしょうか。

■ 3は議論の経緯や議論から導き出されたことのようにして、大事なことを先に持っていきたいと思います。「私たちが大切にしたい幼児期の生きる力とは」はいかがでしょうか。

■ 「実践力」という言葉ですが発達の文脈では忍耐力ややり抜く力として言われるのですが、実践力という言葉で適切でしょうか。実践力という表現でもいいかもしれませんが、

やり抜く力という、目標に向かっての好奇心とか情熱みたいなものや探求心なども含むと思います。

■ やり抜く力は分かりやすいし適切だと思いますが、やり抜かせる力に読み替えられてしまうような気がします。

□ 目標に向かって持続する力にしてみましようか。

■ そうですね。

□ 次のコミュニケーション力というのはどうですか。

■ コミュニケーション力だと確かに、意思の疎通とかですね。

□ キーワードみたいにして挙げてみましたが、5つとも全部なくすのはどうでしょうか。

■ キーワードにしたほうが分かりやすいと思います。

□ 協同性にしましょうか。ほかに、こんな柱があったほうが良いというものがありますか。

■ 一番基本になる「体」に言及があってもいいと思います。

□ 「自分のことは自分でしようとする力」の前にそのことを加えましょう。心身ともに健康が守られる生活の中で、自分のことは自分でしようとする力、どうでしょうか。

「遊びを通した学びを大切にする」で、遊びは重要な学習と位置づけられているという2行を付け足しました。「幼児が興味関心を持ったもの、人、ことに関わることによって生み出す活動である遊びは、発達に必要な体験を積み重ねていくものであり、幼児期における重要な学習と位置づけられている。」でよろしいでしょうか。

もう一つ、「生きる力の基礎が育まれるよう環境を構成する」というところで、適切な保育環境が必要であるということを説明するために、新しく5行付け加えています。特にここでは幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿の説明はしていませんが、もししたほうが良いならば、入れるとすればここになります。

委員からいただいた事例を共有します。園祭りに火山を作ろうという事例で、こんな育ちが見られるというようなキーワードを入れながら、例えば遊びとはこんな感じとか、遊びの中で考えるということが説明できると思います。

■ いろいろ議論がありますが、10の姿は触れておいたほうが良いと思います。

□ それでは、資料の中に、5領域の説明とあわせて10の姿も入れましょうか。

では、図はどうでしょうか。乳児期に、愛着の形成がとっても大事だというのがつながって、愛着が形成されて、情緒が安定して、人を信頼していくという流れです。身近な環

境への関心や他者への関心も、それから自分を出すということも広がって行って、そこに充実した生活や遊びが乗るといふふうにしたいです。

皆さんにお聞きしたいのは、文科省が出している「主体的で対話的な深い学び」の中からも文言を引用していて、環境に関わる力、自分を知る力、他者と関わる力というふうに分けて書いて大丈夫かというのと、充実した生活と遊びイコールのところに、興味・関心があったものに出会って、関わって、そこからつながりとか広がりがあって、また振り返りがあるというものです。これは、カナダのICEモデルという事業の評価、アイデア・コネクション・エクステンションというものを日本語に変えてみたのですが、文科省ではここが遊びの創出、遊びへの没頭、振り返りというふうになっています。「関わり」のところが遊びの創出、「つながり・ひろがり」が遊びへの没頭、そして振り返りのほうが分かりやすいかなと思っています。ご意見をください。

■ 「関わり」のところが遊びの創出にして、その次の「つながり・ひろがり」というのは残すのではいかがでしょうか。

□ では、「もの、人との出会い・関わり」にしましょうか。

■ 「つながり・ひろがり」というと、人とのつながりや人間関係の広がりのように捉えられてしまう感じがして、夢中になって遊ぶとか、遊びを工夫して熱中するとか、遊びの没頭のほうが分かりやすいと思います。

■ 「関わり」のところを、例えば「遊びの創出・関わり」とかに並列して、「つながり・ひろがり」のところを「遊びの没頭・ひろがり」とかにすると、遊びの没頭だけだとイメージがつかない人にとっては広がりとかがあるとイメージしやすいと思います。

■ 自分を知る力という言葉ですが、これはよく使われる言葉でしょうか。

■ 自己認識ということで、自分を知るということでしょうか。自己認識とかはよく使います。

□ 他者と関わる力と環境に関わる力はスキルだから力だと思いますが、ここは自己の広がりにはしましょうか。自己を広げていくのに他者と関わったり、ものに関わったりするというところでどうでしょうか。

■ そうですね。自分を知るだと、今ある自分を知るというだけにとどまってしまう印象があります。

■ 違うところですが、先ほどの「私たちが大切にしたい幼児期の生きる力」という5つがどう位置づいてくるのでしょうか。

□ 上の3つが自分のことで、その次が環境と関わる力、好奇心や探求心、そして他者のところが他者と関わる力というふうに対応しています。

■ 最初の生きる力が最後の図に表れるというのであれば、そこの対応でこの見開きで見ることができると思います。この3つの言葉を入れなくても、生きる力のそういうキーワードが入っていれば、こことここがつながるというふうに見えるかなと思いました。

□ 今ここに挙げている感触とか感覚とかっていうキーワードはなしにして、「私たちが大切にしたい幼児期の生きる力」の文章をここに入れますか。

■ 生きる力が、今5つありますが、番号を①、②、③、④、⑤と振って、表のほうにも入れて、関連づけがあるというのを見せるのもいいと思いました。この図は、乳幼児期から学童期につながっていく中で、何をやっているのかというのがやっぱり見えたほうがいいので、価値があると思います。あとは、生きる力とのつながりという意味では、生きる力の番号で振ってつなげると落ち着く感じがします。

■ 視察は後ろのほうにということですが、認定こども園の記録が、最後の2本が生活スタイルを紹介しているみたいな形になっているので、何のためにやっているかということを入れていただきたいです。

□ 分かりました。それでは、今日はこれで会議を終了したいと思います。ご協力ありがとうございました。

閉 会